



# インドの理工系人材を日本企業へ

## ——LOTUS プログラムの概要と制度設計

高度人材不足に悩む日本の産業界にとっての朗報となるか



国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)  
さくらサイエンスプログラム推進本部 アドバイザー

西川 裕治 さん

—— 西川さんは、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) で日印両国の科学技術協力に携わってられています。JST が立ち上げた新しい人材を交流プログラムについてお話を伺います。

LOTUS プログラムと呼んでいる本プログラムは、単なる一過性の学術交流にとどまりません。日本とインドの大学・研究機関が「共同研究」をベースに対等なパートナーシップを組み、インドの優秀な若手研究人材を日本に招いて双方の教員が「共同指導」を支援する先進的な試みです。

### —— どのような支援を？

本プログラムは、研究の目的や求める成果の深度などに応じて、2つの異なる支援タイプを用意しています。

1つは最長1年間の短～中期の日本滞在を通じ、日印共同研究の基盤形成を目指すタイプです。もう1つは、最長3年間の複数年度にわたる共同研究を支援するタイプです。国際共著論文の執筆や具体的な研究成果を創出することを期待しています。

どちらのタイプにおいても、滞在中に日本の生活や日本企業の R&D 環境、ビジネス文化に触れることができます。

### —— 研究の重点分野にはどのようなものが？

AI・情報・知能ロボティクス、バイオ、エネルギー、マテリアル、量子、半導体、ネット

ワーク・通信といった最先端の7分野と、その関連分野が含まれます。

—— インドの人材に将来日本企業で働いてもらうための具体策を教えてください。

最も効果的なアプローチは、希望者をプログラム期間中または前後に、数週間から数カ月乃至「企業研究所での研究インターンシップ」に組み込むことです。研究者側には、大学の基礎研究が日本の民間企業でどのように社会実装(製品化・事業化)されているかを実体験できるメリットがあり、日本で働く具体的なイメージが湧くでしょう。企業側には、短日数の会社見学や面接だけでは見抜けない、研究者のリアルな技術水準、課題解決力、チームへの適応力(協調性)を事前にじっくり評価できるメリットがあります。

JST、受け入れ大学、そしてインド人材の採用を希望する企業が一体となり、LOTUS プロ



LOTUSプログラムで招へいたインド大学院生・研究者をインド大使館に召集して開催した交流会